

各 位

会 社 名 朝 日 イ ン テ ッ ク 株 式 会 社  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 宮 田 尚 彦  
 ( 東 証 第 二 部 ・ 名 証 第 二 部 ・ JASDAQ コード番号 : 7747 )  
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 管 理 本 部 長 竹 内 謙 式  
 ( TEL.052-768-1211 )

「業績予想の修正に関するお知らせ」及び「平成 18 年 6 月期 中間決算短信 ( 連結 )」における追加説明

当社は、平成 18 年 1 月 6 日の「業績予想の修正に関するお知らせ」(3) 修正理由、平成 18 年 2 月 15 日の「平成 18 年 6 月期 中間決算短信 ( 連結 )」4. 中間連結財務諸表等 注記事項 ( 重要な後発事象 ) において、平成 18 年 1 月 6 日開催の取締役会において大阪和泉工場を売却する方針を決議した旨の記載をいたしました。この決議は、当該工場を今後売却する方向で準備することを決定したものであり、本日現在において、具体的な売却先、売却金額等は未定の状況です。また、当該工場は現在も稼働中であることを追加説明いたします。

( 参考 )

「業績予想の修正に関するお知らせ」

(3) 修正理由

当社グループの関連する医療機器業界では、政府の医療費抑制政策が一層強化され、市場環境は益々厳しくなっております。さらに、国内・海外を問わず、新製品開発や価格面での競争が継続するなど、企業間競争も熾烈化を増しております。

このような情勢のもとで当社グループは、高付加価値製品の拡大に向けて、技術的優位性と開発力の向上に努め、絶えず製品の高機能化・高品質化に注力するとともに、医療機器分野を中心とした海外売上高の拡大に向けて、米国・欧州・東南アジアを中心としたグローバル展開を加速化しており、着実な売上の推移を致しております。その動向を踏まえ、売上高は前回発表予想を上回るものと見込まれます。

利益におきましては、好調な売上に伴う増産効果や、経費の効果的な利用に努めたことに伴い、売上総利益率、営業利益率は上昇傾向にございます。その結果、経常利益、当期純利益ともに前回発表予想を上回るものと見込まれます。以上の理由により、当中間期は売上高、経常利益および中間純利益が平成 17 年 8 月 18 日発表の業績予想を上回る見通しとなったため、上記のとおり上方修正致します。

通期の業績につきましては、下半期における売上高は当初の予想をやや上回ると見ているものの、先行投資に伴う経費の増加を見込んでおり、経常利益は当中間期より小幅の修正に留めています。

また、大阪 R & D センター設立による大阪の既存工場の統合に伴い、当社は平成 18 年 1 月 6 日開催の取締役会において、大阪和泉工場 ( 大阪府和泉市・1,932m<sup>2</sup> ) の土地を売却する方針を決議致しました。売却方針の決議及び大阪 R & D センター設立の早期化に伴い、平成 18 年 6 月期決算において、当該土地について市場価額を勘案した売却可能価格まで評価減し、特別損失として 247 百万円計上する等により、当期純利益については 945 百万円となる見通しであります。

「平成 18 年 6 月期 中間決算短信 ( 連結 )」

4. 中間連結財務諸表等

注記事項

( 重要な後発事象 )

当中間連結会計期間 ( 自 平成 17 年 7 月 1 日 至 平成 17 年 12 月 31 日 )

( 固定資産の売却 )

平成 18 年 1 月 6 日開催の当社の取締役会において、大阪 R & D センター設立による大阪の既存工場の統合に伴い、大阪和泉工場を売却する方針を決議いたしました。

(1) 譲渡資産の内容

土地、建物及び構築物

(2) 帳簿価額

[ 平成 17 年 12 月 31 日現在 ]

土地 354,995 千円

建物及び構築物 40,649 千円

なお、大阪和泉工場を閉鎖し同資産が遊休化した場合、247,000 千円程度の減損損失を見込んでおります。

以 上